

為替相場展望

2026年6月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/exchange/>

目次

- ◆ドル円相場見通し……p. 2
- ◆ユーロ相場見通し……p. 3
- ◆トピック ……………p. 4

メルマガ	X (旧Twitter)	YouTube
 <p>経済・政策情報メールマガジン</p>	 <p>日本総研調査部X (旧Twitter)</p>	 <p>日本総研YouTube</p>

調査部 マクロ経済研究センター（米欧経済グループ）

研究員 吉田 剛士（ Tel: 070-3359-3804 Mail : yoshida.tsuyoshi@jri.co.jp ）
研究員 西村 朱央（ Tel: 080-2404-2822 Mail : nishimura.akira@jri.co.jp ）

- ◆本資料は2026年6月3日6：00時点で利用可能な情報をもとに作成しています。
- ◆「[経済・政策情報メールマガジン](#)」、「[X \(旧Twitter\)](#)」、「[YouTube](#)」でも情報を発信しています。

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

◆ドル円相場回顧

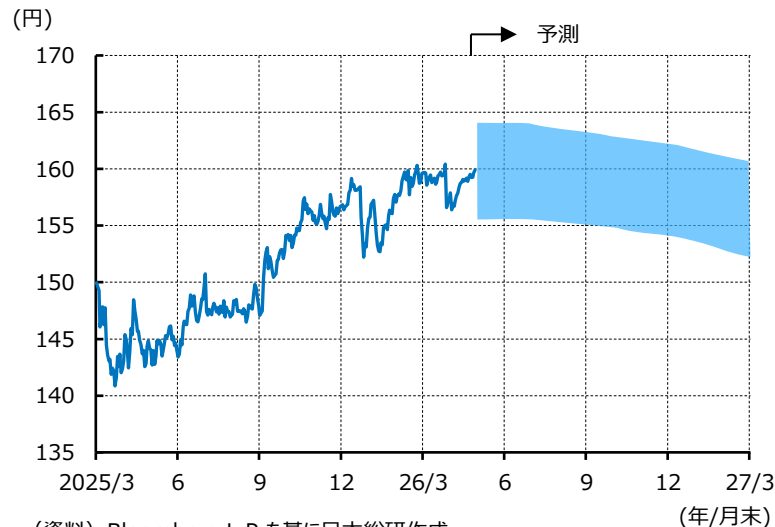
5月のドル円相場は、月初に政府・日銀による為替介入を受けて、一時155円台半ばへ円が急伸。その後、月末にかけて159円台後半へドル高・円安が進行。米国では、インフレ圧力の高まりから、市場でF R Bの利上げ観測が高まったほか、わが国では、原油価格の高止まりを受けて、貿易赤字拡大に対する懸念が強まったことが背景。

◆今後の見通し

当面のドル円相場は、強弱材料が混在するなか、横ばい圏で推移する見通し。日銀は早晚利上げを実施し、日米金利差の縮小がドル安・円高圧力になる一方、資源価格は当面高止まりし、わが国の貿易赤字の拡大が実需面から円を下押しする見込み。

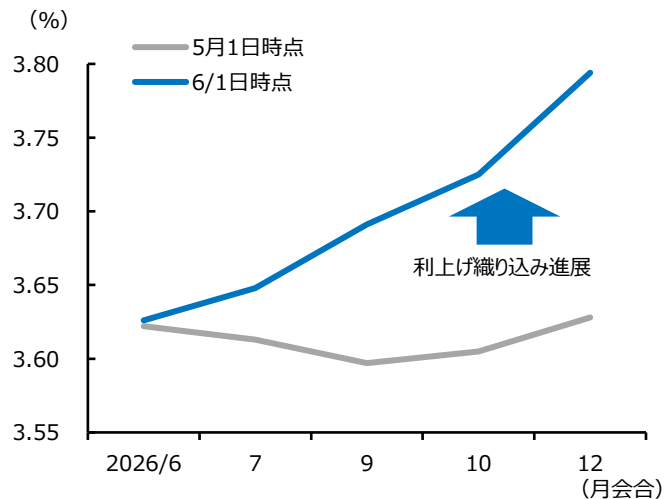
年後半から年明けにかけては、中東危機によるインフレ圧力が徐々に和らぐ米国でF R Bの利下げ観測が強まる一方、日銀は物価や経済の動向を注視しつつ、緩やかなペースで利上げを続けるとみられることから、徐々にドル安・円高が進行する見通し。

ドル円相場見通し

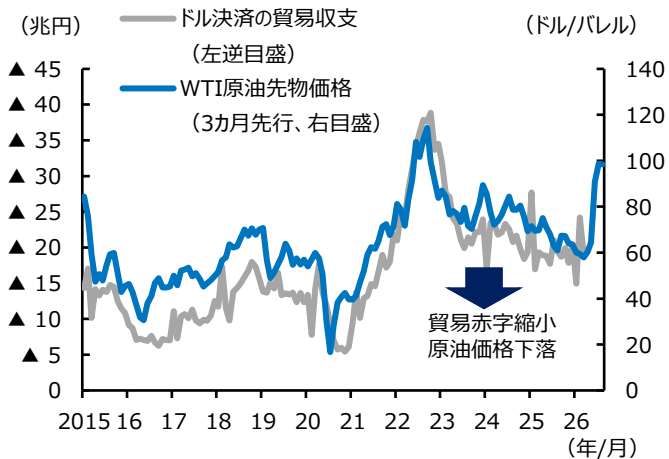


	2026年				2027年
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
期中平均	156.88	159	158	157	155
(高値)	160.46	165	164	163	161
レンジ	∩	∩	∩	∩	∩
(安値)	152.10	157	156	155	153

市場によるF R Bの政策金利見通し



わが国の貿易収支と原油価格



◆ユーロ相場回顧

5月のユーロドル相場は、下旬にかけて一時1.15ドル台後半へユーロ安・ドル高が進行。米国では、FRBの利上げ観測が台頭したほか、ユーロ圏の経済指標が市場予想を下回ったことが背景。月末には、1.16ドル台後半へユーロが上昇。米国とイランの停戦期待が高まり、投資家によるリスクオフのドル買い圧力が弱まったことが背景。

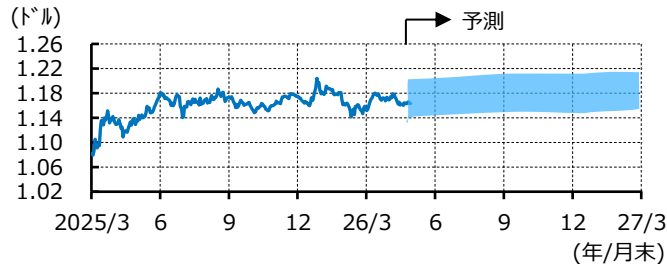
対円では、6月入り後にかけて、186円台前半へユーロが上昇。エネルギー価格の高騰がユーロ圏のインフレ率を押し上げ、ECBによる利上げ観測が強まったことなどが背景。

◆今後の見通し

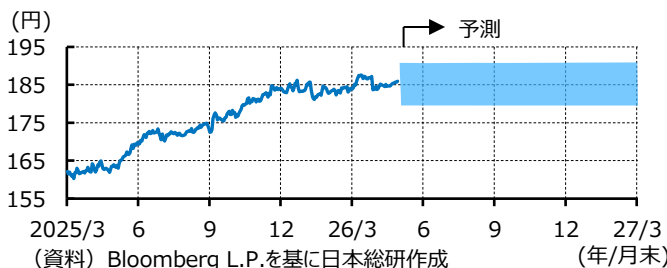
先行きのユーロドル相場は、緩やかなユーロ高基調で推移する見通し。中東危機による資源価格の高騰を受けて、ECBは複数回の利上げを行うと予想。一方、FRBは当面政策金利を据え置くとみられ、欧米金利差の縮小がユーロを押し上げる見込み。

対円では、横ばい圏で推移する見通し。ECB、日銀ともに利上げを実施することが予想され、金融政策の方向性の違いが出にくいことが背景。

ユーロ相場見通し

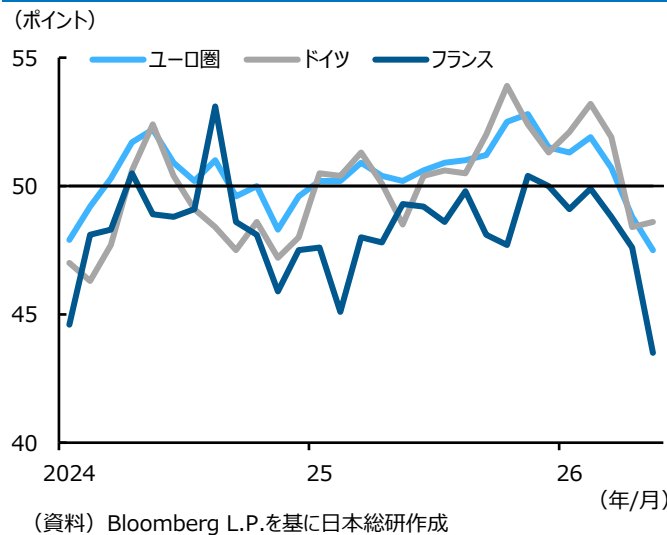


	2026年				2027年
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
期中平均	1.171	1.17	1.18	1.18	1.19
(高値)	1.208	1.19	1.20	1.20	1.21
レンジ	∩	∩	∩	∩	∩
(安値)	1.141	1.14	1.15	1.15	1.16

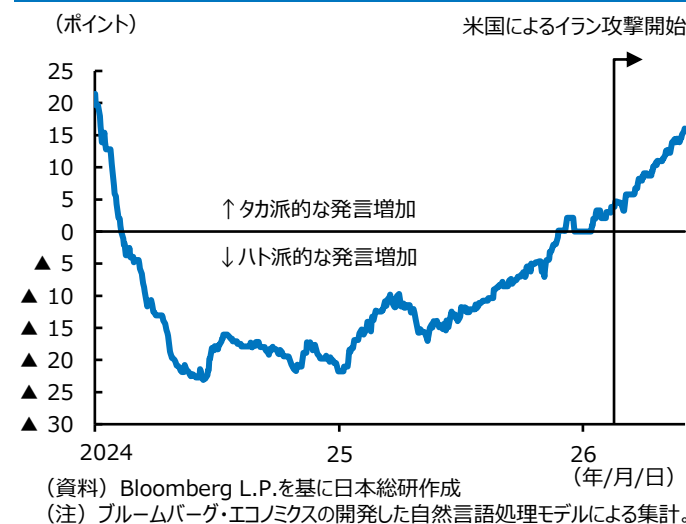


	2026年				2027年
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
期中平均	183.62	185	186	185	185
(高値)	186.87	190	191	190	190
レンジ	∩	∩	∩	∩	∩
(安値)	180.81	182	183	182	182

ユーロ圏のコンポジットPMI



ECB高官のスピークセンチメントインデックス



◆追加介入余力がドル円の上値を抑制

4月下旬以降、政府・日銀による大規模な為替介入を受け、市場では追加介入への警戒感が意識。介入前には、中東情勢の悪化に伴うドル需要の増加と投機筋の円売りポジションの拡大を背景に、一時160円台後半へドル高・円安が進行。これを受けて、政府・日銀は4月下旬から5月初旬にかけて計11.7兆円規模の為替介入を実施し、一時155円台前半へ円が急騰。

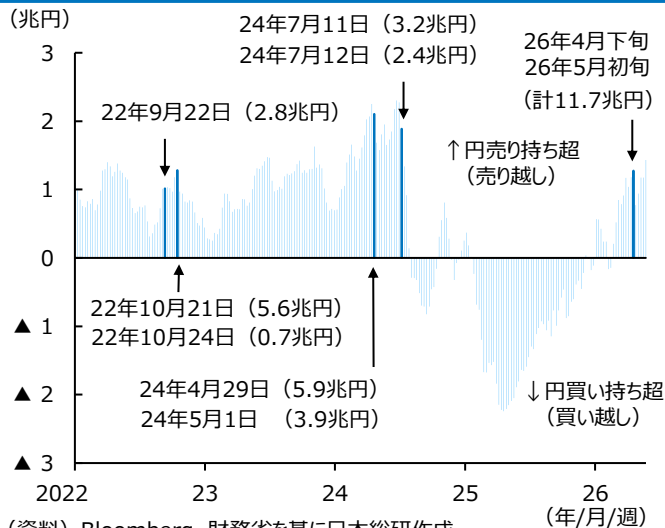
今後も急速な円安進行時には追加介入への警戒感や介入実施がドル円の上値を抑える要因に。介入の原資となるわが国の外貨準備は、4月末時点で約1.4兆ドルと潤沢。

◆円高定着のカギは日米金融政策

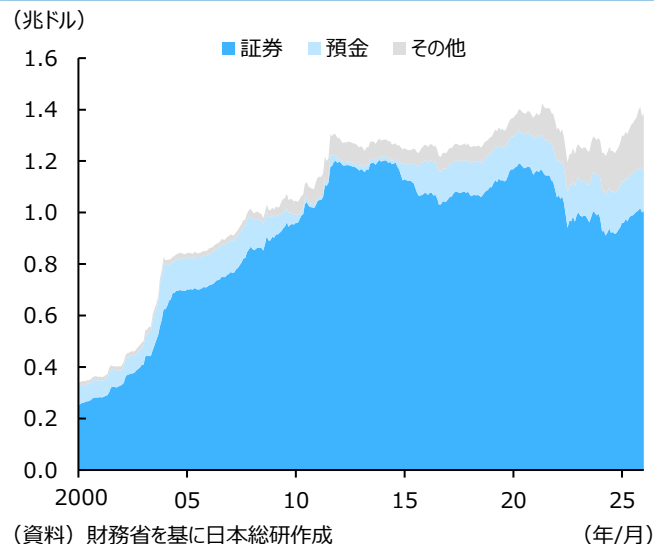
もともと、過去局面では、介入単独で円安基調は定着せず、日米金融政策の変化を伴う場合に円高トレンドが持続。これまでのドル売り・円買い介入をみると、初回介入は一時的に円高方向に振れたものの、短期間で円安水準に回帰。円高トレンドが持続した局面では、日銀の利上げやFRBの利下げなどが背景に。

今次局面でも、円高基調への転換には、日銀の追加利上げとFRBの利下げ観測の強まりがそう必要。日銀の利上げが続く一方、年後半から年明けにかけてインフレ圧力が徐々に和らぐ米国でFRBの利下げ観測が強まれば、日米金利差の縮小が意識され、緩やかな円高が進行する見通し。

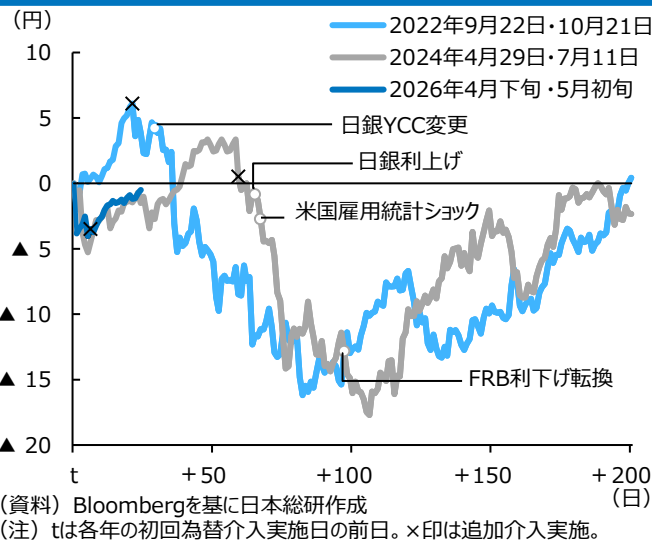
シカゴIMM・円ネットポジションと為替介入の状況



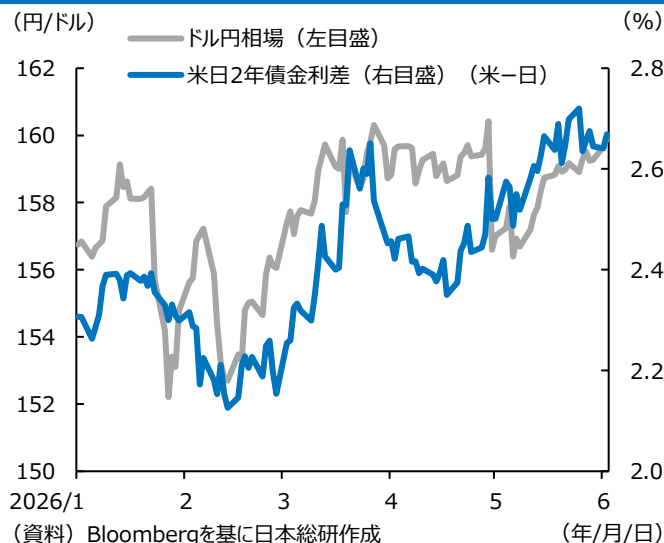
わが国の外貨準備残高



為替介入後のドル円相場の変動幅と金融政策の動向



ドル円相場と日米2年債金利差



公表済みのレポート（欧米経済関連）

詳細は、以下のリンクからPDF形式でご覧いただけます。

- ▶ [英国の財政規律、地方選挙を受けて高まる緩和圧力―「ドーマー条件」が満たされにくいなか、金利上昇・ポンド安が進むリスク―](#) ジェイムズ・パターソン 6月1日
- ▶ [日本と欧州が直面する「同盟国のトリレンマ」― 日本も辿る欧州の道、双方の協調で負担軽減を ―](#) 立石宗一郎
中井勇良
西岡慎一 5月26日
- ▶ [為替介入後も根強い円安圧力 ― 円安是正には成長力の向上が不可欠 ―](#) 立石宗一郎 5月22日
- ▶ [データセンターが押し上げる米国の電力需要 ― 需給のひっ迫や供給の不安定化が投資・生産活動の重石となる恐れ ―](#) 森田一至 5月22日
- ▶ [米中北京首脳会談に見える演出された安定と先送りの構図](#) 福田直之 5月18日
- ▶ [米国の太陽光パネルでの産業政策の後退とその影響 ― さらなる脱中国を重視、A I時代の電力不足への対応とのジレンマに ―](#) 野木森稔、
ジェイムズ・パターソン 5月15日
- ▶ [米中北京首脳会談で想定される論点 ― 休戦の延長と対立の管理 ―](#) 福田直之 5月11日
- ▶ [原油高がもたらす共和党への逆風 ― インフレの負担は低中所得層に集中、選挙への影響も](#)
二 森田一至 5月8日